

# 資源再利用完成品12月に

## キーホルダー製作・水沢工高 園児から空き缶引き取る

### 奥州

奥州市の県立水沢

工業高校(日當仁己校長)の機械科課題研究「SDGsキー

ホルダーを作ろう!」のメンバーは13日、同市江刺の稲瀬わかば園(有住百香里園長、園児86人)を訪ね、キーホルダーの材料として回収を依頼していたアルミ缶を引き取った。メンバーは持続可能な開発目標(SDGs)とキーホルダーについて説明するとともに、園児にクリスマス前に作品を届けることを約束した。キーホルダーの型は出来上がり、今月下旬から量産を始める。

同課題研究は3年生の6

人のグループ。空き缶を回収してアルミ製のキーホルダーを作るため、これまでに鋳物や半導体・電子部品製造の地元企業を訪ね、アドバイスなどを受けてきた。同園には園児や保護者に向けて、空き缶回収を依頼していた。

同日はリーダーの菊地駿太さんからグループ全員で同園を訪問。園児にパネルを使ってSDGsや「奥州版SDGs」の内容、キーホルダーの作り方を紹介した。その後、今月5〜12日に園児や職員が持ち寄った空き缶(約270罐)の入

った袋を園児から受け取った。

有住園長は「空き缶も資源。1回で捨てるのはもったいない。お兄さんたちはまだ使える物を喜んでもらえるように変えてくれます」と園児に説明。メンバーは「クリスマスまでに持つて来るように頑張ります」と意気込みを語った。

メンバーの高橋孝輔さんは「空き缶が捨てられるか、再利用されるかで変わる」と、自分たちの取り組みが環境にも影響があることを園児に伝えたい」と話していた。

同グループでは今後、型

を複数作ってキーホルダーにし、園児や職員にキーホルダーをプレゼントし、出る見込み。12月に同園を訪前授業を行う。



稲瀬わかば園の園児らが持ち寄った空き缶を受け取る水沢工高のグループ